

文書館だより

ふみくら

文庫

第 15 号

2008年10月20日発行

藤沢市文書館

Fujisawa city archives

〒251-0054 藤沢市朝日町12-6

TEL 0466-24-0171 FAX 0466-24-0172



関東大震災での藤沢駅とその周辺の被害（「関東大震災画報」東京写真時報社、1923年から）

上の写真は、藤沢駅およびその周辺を撮影した航空写真です。この写真の中に「国府津二至ル」という書き込み(これは上記画報に掲載されたそのままのもの)がありますので、写真の上部が南であることがわかります。中央を南北に縦断しているのは江の島道で、その道沿いに上部から江ノ電と東海道線の藤沢駅が南北に隣接しています。江ノ電の駅舎は幸いにして目立った被害はないようですが、藤沢の表玄関ともいべき東海道線の駅舎は屋根だけを残して潰れています。ほかにも街の至る所で建物が倒壊し瓦礫が散乱しているのがわかります。このような地震被害を撮影した航空写真が『画報』などに掲載されることで、当時の多くの人々は初めて航空写真を目にし、そして関東大震災の被害の大きさを実感したのでした。(参考：神奈川大学21世紀COEプログラム「関東大震災 地図と写真のデータベース」<http://www.himoji.jp/database/db06/> (中村)

目 次

関東大震災での藤沢駅とその周辺の被害	1
藤沢山日鑑茶話（7）黒門の話	2・3

藤沢近代史話 時刻表は語る（上）	3
連載・古文書の読み方（第15回）	4
編集後記	4

連載 藤沢山日鑑茶話

とうたくさんにつかんさわ

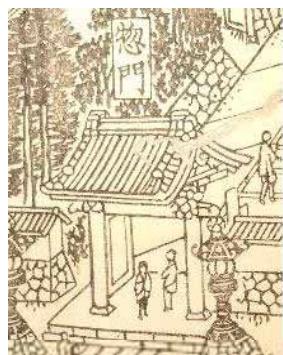
第7回 黒門の話

旧藤沢宿の入口、旧東海道から境川にかかる赤い遊行寺橋をわたって進むと、正面に黒塗りの大きな門が見えてきます。これは遊行寺の惣門で、黒門と呼ばれ親しまれています。この門をくぐり、参道のいろは坂を登ると本堂です。現在の黒門は、主柱の後に控柱をもつ4本足で、屋根が無く、主柱の上部を横木が貫く「冠木（かぶき）門」という形式です。日本三大黒門の一つといわれますが、他の二つがはっきりせず、どうも根拠はないようです。

天保10年(1839)成稿の「相中留恩記略」挿図や明治初めの境内図では、この門は「惣門」とあって黒門とは書かれません。姿も今とは違い、冠木門に屋根がついた薬医門の形式で、基壇もあります。そしてなにより黒く見えません。江戸後期の境内図で、門全体を茶色に塗ったものもあるので、やはり黒くなかったのでしょう。一説に大書院への門（現在は中雀門の隣）がもともとの黒門だともいわれ、確かにどの図でも黒く描かれています。とすればこのころ惣門は「黒門」と呼ばれていなかったのでしょうか。



相中留恩記略の黒門



明治初境内図の黒門

文政13年(1830)に小川泰堂が記した「我がすむ里」という、藤沢とその周辺の地誌があります(『藤沢市史料集2』所載)。その中の清淨光寺の項では、「総門 西面なり、里俗むかしより黒門と呼ならわす、案するに上古は黒塗の門なりしや」とし、次いで境を表す畔(くろ)、あるいは外廓(くるわ)門の意味かとも推測しています。つまりこの時代は、黒門と呼ばれる黒くない門だったのです。それはなぜでしょうか、泰堂ならずとも、疑問に思います。

そこで「藤沢山日鑑」から関係記事を幾つか拾ってみました。数字は既刊巻数です。

享保8年(1723)12月18日

黒門前甚左衛門母之戒名願上候 1

享保20年(1735)3月23日

今日黒門構黒塗致候 1

宝暦14年(1764)1月22日

黒門前今井助治郎屋敷相求申候二付 4

天明2年(1782)2月13日(井戸掘り願書写)

此度御下馬升形之内堀際より五間四尺、御黒門通り敷石より四間五尺、東之角ミ平地より五尺下り、元ト井戸ヲ堀 7

天明8年(1788)4月13日(惣門について)

今日棟上之事(24日に棟札写あり)7

天明8年6月27日

三州より経蔵觀音堂惣門之瓦着船致し、此間中片瀬より附送ル 7

寛政10年(1798)9月16日(大坂目付の立寄)

尤自分院内外者不及申、黒門内塔頭・門前通掃除等入念候様…長生院色衣五条ニ而黒門迄迎ニ出致案内來 10

天保12年(1841)4月23日(江戸代僧の出迎)

旦中并御出入之もの廿四五人影取西村迄御迎ニ参、衆分黒門迄、大衆山門迄、老僧中者玄関迄 21

が一番古い記事です。と同様、黒門前に一般の人が住んでおり現在地と考えられます。なお惣門の周辺は今でも「黒門町」と呼ばれています。からは、升形(ますがた、いろは坂下の堀で囲んだ区画)に隣接していると分かり、はいろは坂の両隣に位置する塔頭が黒門内にあるという意味なので、これらの記事は惣門がずっと黒門と呼ばれてきたことを裏付けます。

そしてなぜそう呼ばれているかは、の享保20年に黒塗りをしたという記事から理解できます。泰堂の想像通り元は黒かったのです。のように建て替えるうち、塗られなくなってしまったのでしょうか。

明治13年(1880)「清淨光寺境内絵図面明細書目」(清淨光寺文書)の「総門」の項からは、桁行3間1

尺(約 570 cm)、梁間 2 間 3 尺(約 450 cm)、棟高 1 丈 4 尺(約 420 cm)、屋根は銅板葺きで、紀伊藩主徳川治宝が染筆した「登靈台」の額が掛けられていたとわかります。「藤沢山日鑑」は文政 13 年(1830)5 月 25 日(17 卷)に、この額が届いたと記します。

この惣門は明治 13 年 11 月の藤沢町大火で、他の堂宇と共に焼失してしまいましたが、明治 16 年「仮表門」として再建されました(青木家文書)。また関東大震災でも遊行寺は本堂以下諸堂が倒壊する大きな被害を受けましたが、惣門についての記録は見つからず、この時どうなったのかはわかりません。ただ震災前と推定される絵葉書に写った門(右写真)は今とそっくりで、倒れたとしてもそのまま引き起こせたのではないかと思われます。

現在の惣門は主柱間 510 cm、主柱と控柱間 250 cm と



The oldest Ugiroji, Fujisawa. 遊行寺惣門前

遊行寺惣門前(明治末~大正)

昔と比べてもそう遜色ない大きさで、訪れる人々を迎えています。「登靈台」の額は明治の大火の際も救い出され、現在は本堂の正面扉の上に掛けられており、往時を忍ぶことができます。(酒井)

藤沢近代史話 時刻表は語る(上)

非常に小さな時刻表

右側の写真は、「藤沢大坂町」(現在の藤沢市西富・大鋸・藤沢地区)にあった「相模共栄銀行」が印刷した、2 つ折りの広告の 1 頁分に掲載されていた時刻表を写したもの。この広告は非常に小さく、広げても縦約 8 cm、横 12 cm 程です。そのため、財布などに入れて持ち運びが便利なように印刷されたものと思われます。

藤沢駅は、明治 20(1887)年 7 月 11 日に東海道本線の横浜 国府津間の開通と同時に開業しました。横浜駅と国府津駅の発着時刻と賃金表は『官報』第 1208 号(明治 20 年 7 月 8 日付)に掲載されたものでわかりますが、藤沢駅発着の時刻は不明です。なお、開通時の運転間隔は上下とも 1 日各 3 本で、藤沢 横浜間が上等 58 銭、藤沢 国府津間が上等 67 銭でした。ちなみに当時のそばの値段は、もり・かけ 1 杯がちょうど 1 銭でした。

参考図書などから推測すると、この時刻表は明治 27(1894)年から 40 年の間に印刷されたものと思われますが、明治期の列車ダイヤがいたってのんびりしたものであることがうかがえます。

「印ハ横浜経由致サズ候」

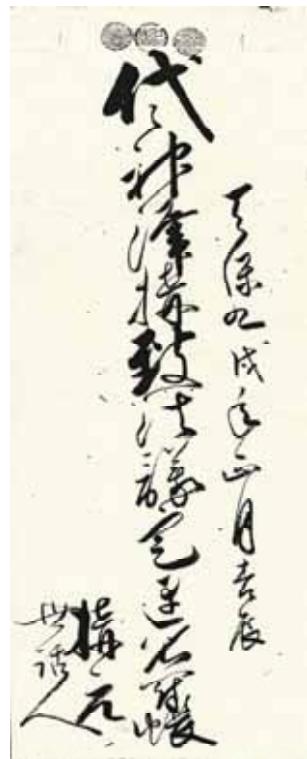
注目すべきは、写真の右端縦書きで、上り電車で横浜を経由しないものがあることが で明示されている点です。これは明治期の横浜駅(初代)が海運との関係で現在の J R 桜木町駅付近に建てられ、本線からず

れていたためスイッチバック式がとられていたことによるもので、明治 31 年に上り方面短絡線の停車駅として程ヶ谷駅(現在の保土ヶ谷駅)、明治 34 年に平沼駅(現在の横浜駅近く、現存せず)が設定されました。(中村)
(参考: 鉄道史録会『史料鉄道時刻表 明治四年~二十六年』大正出版、1981 年)

藤澤驛發着車時間表									
上 リ					下 リ				
午前	6, 4	7	午前	7, 3	8	午後	1, 2	3	午後
	7, 3	1		8, 2	1		1, 0	1	2
	8, 2	9		1, 0	1		1, 1	4	7
	1, 0	2	9						
午後	1	2,	2	7	午後	1	2,	3	7
●		2,	1	2			1,	5	8
●		4,	0	2			3,	0	1
		5,	1	9			4,	1	5
●		6,	2	7			5,	2	7
		7,	2	9			5,	5	7
		9,	4	9			6,	5	7
							9,	3	5
							1	2,	3
									1

<問題>

次の写真は、江戸時代に現在の藤沢市・茅ヶ崎市にまたがる地域の人々が、とある講組織を結成した際に作成された帳面です。右の写真が帳面の表紙、下の写真が講中を結成した際の起請文になっています。この講組織では、6年後に伊勢神宮へ参詣することを目標にしてお金を積み立てているのですが、この講は何年に結成され、また名称は何でしょうか？(加藤)



【おわびと訂正】

前号(第14号)の表紙の部分で、白瀬中尉の講演案内の読み下し文を紹介いたしましたが、その表記に誤りがありました。「後来聴」と記しましたが、正しくは「御来聴」です。同じ号の4頁目にある「古文書の読み方」の中の解説部分で「鎌倉の天嶽院領」と記した部分がありますが、正しくは「(渡内)村内の天嶽院領」です。以上この2点について、心からお詫び申し上げ、訂正いたします。(中村)

編集後記

関東大震災が9月1日に起こったことや、8月下旬から9月初めが「防災週間」となっているせいか、毎年この時期はテレビなどで防災訓練の模様がよく紹介されますが、地震災害はいつ起こるかわかりません。そこで、藤沢に起こった関東大震災の記憶を忘れないために、表紙では藤沢駅およびその周辺の被害の様子をおさめた航空写真を取り上げました。

遊行寺の黒門については、「日本三大黒門」の一つと称されることがあるわりに、その歴史は詳しくは知られていないようです。そこで、今回の「藤沢山日鑑茶話」では、近世文書や近代の絵葉書などに記された記

事や画像の紹介を通じて、黒門を追跡することに努めました。

「藤沢近代史話」は一話で完結しきれない近代の藤沢の話題を取り上げるもので、今回は時刻表という、一見ありふれているが故に保存されにくい資料を取り上げました。時刻表には、「上り」と「下り」の列車のそれぞれの停車と発車時刻、そして乗り換えや通過する駅名くらいしか記されていませんが、よく見ていくと当時の鉄道事情のみならず、その時々の駅を取り巻く社会や世相が浮かび上がって来ます。近代の藤沢を考える上でご参考になれば幸いです。(中村)